与謝野町
高校魅力化ビジョン

令和 4 年度 → 令和 6 年度

令和４年３月

京都府与謝郡与謝野町
京都府立加悦谷高等学校
京都府立宮津天橋高等学校加悦谷学舎

魅力ある教育が活力ある人や地域を創るまちを目指して

京都府与謝郡与謝野町
町長　山　添　藤　真

令和４年３月、加悦谷高等学校は 74 年の歴史に幕を降ろし、その伝統と校風は宮津天橋高等学校加悦谷学舎へと継承されます。その大きな節目を迎えるにあたり、与謝野町と高校におきましては、この度、今後の協働による人づくりの指針となるビジョンを策定しました。

過去を振り返りますと、かつての先人の希望は、協働によって、この地に新たな学び舎をつくることでした。そして、今回は、協働によって、新たな学びをつくり、希望ある未来へとつなげていきます。つまり、先人の想いを継承し、高校魅力化ビジョンを通じて、協働を一歩前へと進めます。

本町は、町の最高の資源を人と位置づけ、町内唯一の高校の価値を認め、地域の学生の中で社会にもっとも近い存在である高校生とのつながりを重視し、平成 29 年度から高校魅力化推進事業をスタートさせ、平成 31 年４月から高校魅力化コーディネーターを常駐配置するなど、関係性の強化を図ってきました。

この間、多くの皆様のご協力のもと、探究学習やキャリア教育等に「地域」という要素を積極的に取り入れた学びを展開してきた結果、高校生の地域に対する愛着、将来の地域貢献に対する意識、地域における主体的な活動が見えるようになってきました。

今後は、策定したビジョンに基づき、より魅力的で、より効果ある学びづくりを進めることとしていますが、加悦谷高校は、数十年以上に渡って続いている与謝の海支援学校、英国ウェールズ・アベリスツイスの学生との交流など、多様性理解を深める学びが大きな魅力のひとつであり、それは宮津天橋高校加悦谷学舎にもしっかりと継承されています。

また、本町にも、これからの時代を生き抜くヒントとなる魅力的な教育資源が溢れています。

３人の始祖から広がった丹後ちりめんの歴史からはチャレンジ精神、地域の寄付を原資として設立された加悦鉄道の歴史からは利他の精神、地域の教育にかける熱意を結集して創立された加悦谷高校の歴史からは協働の精神を学ぶことができます。さらに、誰一人取り残さない教育を目指した与謝の海支援学校の創立に至る経緯、自然との共生を目指した自然循環型農業などは、ＳＤＧｓを先取りした取り組みです。

こうした地域の誇りある歴史文化は、今を生きる人々にも息づく「地域ＤＮＡ」として継承されています。これらを深く堀り下げ、今ある魅力に気づき、磨くことが、新たな魅力の創出につながります。そして、「地域の深掘りはグローバルにつながる」という言葉のとおり、自らの足元や背景を理解することが、視野と可能性を大きく広げ、世界のどんな場所でも自信と思いやりをもって、新たな未来を切り拓いていく力に結実していくものと確信しています。

なお、高校魅力化推進事業は、教育を切り口として、将来の地方創生、地域活性化を目指す中長期を見据えた事業である性質上、その効果を測るには今しばらくの時間を要します。

しかし、本事業を着実に進めていくことで、数年後の桜の季節には、町の至る所で、「ただいま！」と「おかえり！」の声が交差し、新たな挑戦が連鎖する活力ある人や地域へとつながっていくものと信じています。

結びに、地域の皆様におかれましては、今後ともビジョンの実現に向けて、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ー 目次 ー

第１章　高校の現状と魅力化ビジョンの必要性

１．高校の概要 ・・・・・1
２．町内の児童生徒数の推移・高校の募集定員と今後の予測 ・・・・・3
３．町内中学生の加悦谷高校・宮津天橋高校加悦谷学舎への進学状況 ・・・・・3
４．現状の環境分析 ・・・・・4
５．高校の存在が町づくりに与える影響 ・・・・・4
６．町づくりにおける高校の必要性 ・・・・・5
７．全国の高校魅力化事例とその効果 ・・・・・5
８．町と高校との魅力化推進事業の経緯と成果 ・・・・・6
９．町と高校が目指す魅力化の方向性 ・・・・・7
10. 魅力化ビジョン策定の必要性 ・・・・・8
11. 第２次総合計画・第２期ひと・しごと・まち創生総合戦略との関係性 ・・・・・8

第２章　高校魅力化ビジョンが目指すもの

１．基本理念 ・・・・・9
２．基本方針 ・・・・・10
３．計画期間 ・・・・・10

第３章　高校魅力化ビジョンの具体的な事業や取組み

１．実行プラン体系図 ・・・・・11
２．協働で取り組む施策 ・・・・・11
３．現状と目標設定・手法・成果指標 ・・・・・12

第４章　高校魅力化ビジョンの推進体制と役割分担

１．各ステークホルダーの特徴 ・・・・・13
２．推進体制 ・・・・・13
３．役割分担 ・・・・・13

学校長挨拶

「魅力ある学校と地域づくり」　宮津天橋高等学校　校長　深田　聡 ・・・・・14
「高校魅力化ビジョン」策定にあたって　加悦谷高等学校　校長　藤田　浩 ・・・・・15

参考資料

与謝野町高校魅力化ビジョン策定の経緯 ・・・・・16
与謝野町高校魅力化ビジョン策定検討委員会・ワーキングチーム名簿 ・・・・・17

第１章　高校の現状と魅力化ビジョンの必要性

１．高校の概要

宮津天橋高校加悦谷学舎の前身である加悦谷高校は、「地域の子どもたちは地域で育てる」という情熱を原動力に、地域住民、教員、自治体の協働によって、昭和 23 年に創立され、以降、70 年以上に渡り、幾多の有為な人材を輩出してきました。

昭和 47 年からは、同じ情熱と協働によって創立された与謝の海支援学校との交流がスタートし、50 年近く続く伝統事業になっています。

部活動も活発で、合唱部は平成２年から５年連続全国制覇、シューベルト国際合唱コンクール総合１位を４回獲得。ウェイトリフティング部も平成 16 年からインターハイ学校対抗３連覇を成し遂げ、北京オリンピックの入賞者も輩出しています。なお、近年は、文化系部活動の合唱部、書道部、茶道部等が、積極的に地元イベントに参加し、地域に活力を発信しているほか、体育系部活動においても、地域開放型スポーツクラブ「ジラソーレ与謝スポーツクラブ」などを通じて、地元の小中学生との交流を深めるなど、地域に開かれた活動が展開されています。

しかし、全国的な少子化の流れの中、生徒数は、昭和 56 年の入学定員 270 人をピークに減少し続け、令和元年度以降の募集定員は 80 人となっています。さらに、平成 28 年頃から丹後地域の高校再編の議論が持ち上がり、令和２年４月に、加悦谷高校は、宮津高校と合併し、宮津天橋高校加悦谷学舎として、新たな歴史を刻むこととなりました。

加悦谷高校・宮津天橋高校加悦谷学舎正門

教育理念

真理と正義を希求し、豊かな人間性を備え、幸せな人生と社会を創造する人間を育成する

教育目標（中期経営目標）

1　生徒一人一人の可能性を伸ばし、希望進路の実現を図るとともに、社会に貢献できる人材の育成
2　伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、地域社会を守り受け継ぐ人材の育成
3　豊かで幸せな人生を送ることができるよう主体的に学び続ける人材の育成

育てる生徒像

1　理想を実現しようとする高い志や意欲を持ち、主体的に学びに向かい、人生を切り拓いていくことができる生徒
2　対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとともに、他者への思いやりを持って多様な人々と協働していくことができる生徒
3　よりよい人生や社会の在り方を考え、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができる生徒

コース編制

1年次	習熟度別クラス編制		
2年次 3年次	**アドバンストコース** ■ 国公立大学や難関大学を含む私立大学への進学	**スタンダードコース** ■ 主に短期大学、看護・医療系を含む専修各種学校への進学	**アスリートスポーツコース** ■ 身体能力、競技力の向上 ■ スポーツ指導法、スポーツライフ設計などの理論学習
	大学進学に対応	多様な進路希望に対応	

進学・就職状況

年度	進学（合格状況）				決定状況	卒業生徒数
	国公立大学	私立大	短大	専・各等	就職	
平成 30 年度	1	59	13	43	19	116
令和元年度	4	29	5	45	20	85
令和 2 年度	6	44	15	24	17	84

地域別就職状況

年度	京都			大阪	その他	合計
	丹後・中丹管内	京都市	府下			
平成 30 年度	8	2	4	3	2	19
令和元年度	9	7	3	1	0	20
令和 2 年度	9	3	3	1	1	17

部活動加入状況（令和３年度）

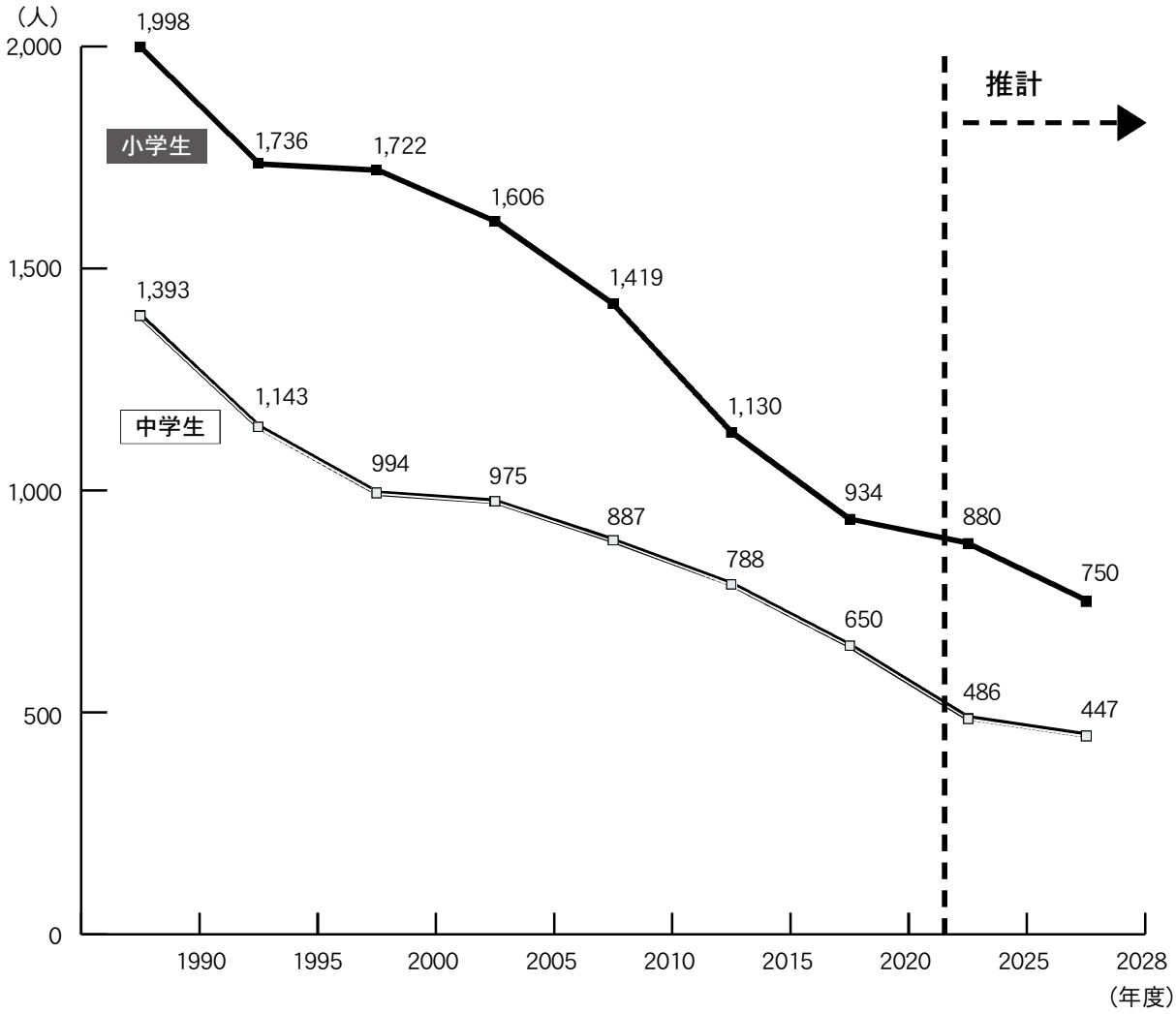
１年生	２年生	３年生	全体
74.1％	70.5％	68.4％	71.0％

２．町内の児童生徒数の推移・高校の募集定員と今後の予測

本町の児童生徒数は下図のとおり減少の一途を辿っています。平成 28 年度以降、再編により小学校数が３校減少し、最も人口が多い野田川地域の江陽中学校においても、令和３年度の１年生は２クラスとなるなど、今後もこの減少傾向が進展していくことは確実な状況です。

また、加悦谷高校・加悦谷学舎の募集定員も、少子化に伴い、平成 24 年度までは 160 人で推移していましたが、令和元年度以降は 80 人と、わずか数年のうちに半減しています。

児童生徒数の推移



生徒募集人員の推移

平成７～24 年度	平成 25 年度	平成 27 年度	平成 29 年度	令和元年度
160 人	130 人	120 人	90 人	80 人

3．町内中学生の加悦谷高校・宮津天橋高校加悦谷学舎への進学状況

ここ数年、本町にある３つの中学校から加悦谷高校・宮津天橋高校加悦谷学舎への進学率は約 25％（橋立中は宮津市の生徒も含む）で推移しています。本町及び丹後地域全体の児童生徒数は、今後も、減少していきますので、現状のまま推移すると、さらなる生徒数の減少が推測されます。

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
加悦谷高等学校 宮津天橋高等学校加悦谷学舎	25.4％	25.4％	25.1％
丹後通学圏内公立校	43.8％	48.3％	48.9％
丹後通学圏外公立校	4.5％	1.7％	3.5％
私立高校・その他	26.3％	24.6％	22.5％

4．現状の環境分析

区分	魅力	課題
生　　徒	□ 素直さ・気立ての良さ □ 人の話を聞く力 □ 校内における元気なあいさつ	■ 自己肯定感の低さ ■ 一歩前に踏み出す力の弱さ ■ 基礎学力・準備力・想定力の弱さ
高　　校	□ 多様な進路希望への対応 □ 学校アンケートの肯定的評価の向上 □ 地元就職率の高さ（60％超）	■ 業務の多忙化 ■ 慢性的なマンパワー不足 ■ 異動によるノウハウや熱量の継承の難しさ
与謝野町	□ 豊富な教育資源（人・歴史文化・技術） □ 保幼小中高までの教育環境 □ 見える人間関係（温かさ・強さ）	■ 地域としての自己肯定感の低さ ■ 厳しい財政・経済状況 ■ 人材（後継者）不足・就きたい仕事不足

5．高校の存在が町づくりに与える影響

学舎制の導入により、町内唯一の加悦谷高校は、宮津天橋高校加悦谷学舎として存続されることとなりました。府立高校は行政上、管轄外となりますが、ここで本町にとって高校の存在が町づくりにどのような影響を与えるのか、以下のとおり整理しました。

区分	魅力
高等学校がある町	□ より多くの熱量人口・将来の地域貢献人材を育成できる □ 人づくりの町として移住定住を呼び込むことができる □ 町づくりの参画者としての可能性を引き出すことができる □ 距離的な近さという全てにおいて便利で有利な環境が確保できる □ 地域の子どもは地域で育てるという誇りある教育を展開できる □ 広域連携行政が進展しても地域の存在感を示すことができる
高等学校がない町	■ 町の熱量を伝える機会の喪失 ■ 人口減少の加速 ■ 地域活力の低下、地域が大切にしてきた歴史文化の衰退 ■ 財政支援（通学補助・奨学金等）の必要性の増大 ■ 教育の空洞化・二極化の進展 ■ 広域連携行政推進における地域の存在感の希薄化

６．町づくりにおける高校の必要性

子どもの成長を段階別に区分すると、幼児は萌芽期・形成期、小学生は涵養期、構築期、中学生は流動期、葛藤期、高校生は展望期、移行期に分類することができます。

現在、本町では、保幼小中に加え、高校においても積極的にふるさと学習を展開していますが、やはり、保幼小中の積み重ねに加えて、社会への参画を展望し、大人へと移行していく時期にあたる高校生に対し、地域の魅力や課題を伝えた上で、「未来を一緒に創ろう！」と、訴えることが、人づくりとして有効であり、それを町内唯一の高校の教育の中に組み入れることで最大の効果を見込むことができます。

これは、町内に高校があるからこそできることであり、高校は先人が遺してくれた貴重な財産であると言えます。

本町としては、高校の探究学習、キャリア教育、進路の全てに地域が密接に関わり、支援をすることで、町に愛着と誇りを持てる人づくりに努め、将来の地方創生、地域活性化へとつなげ、持続可能な町づくりを推進していくこととします。

７．全国の高校魅力化事例とその効果

高校魅力化は、社会に開かれた学校を推進し、生徒と地域住民との共学によって、「地域を元気にするために都会の大学で学んで戻ってきたい！」と考える若者と、「若者がここに帰ってきたいと思える町をつくりたい！」という地域住民の相乗効果により、魅力ある学校と魅力ある地域を共創していくことが目的です。

この目的を実現するため、全国で取り組まれている魅力化事業については、以下の３つの施策を柱としています。また、この事業を推進するにあたり、各自治体は地元の高校に対し、多額の経費（数千万円～１億円超）を支出しています。令和元年に、民間のシンクタンクが、高校魅力化の先駆けである島根県立隠岐島前高校と島前地域を構成する３町村の取り組みを分析し、その効果を以下のとおり発表しました。

なお、Ｕターン率の向上の背景としては、郷土愛と学習意欲の醸成を狙いとした地域探究、「仕事がなければつくればいい！」という地域起業家精神を伝えるキャリア教育の推進が実を結んでいることなどが挙げられます。

■ 魅力化施策と内容

No.	魅力化施策	目的
1	教育寮の整備・寮生への支援	生徒の全国募集と地元生との交流による学校の活性化
2	公営塾の整備・運営	学力伸長及び進路保障・地域キャリア教育の推進
3	地域探究・地域実践の推進	地域探究・地域実践の推進による郷土愛と学ぶ意欲の醸成

■ 魅力化施策の効果と目的

No.	魅力化施策の効果	目的
1	総人口の増加	約５％の増加（地域外流出の鈍化とＵＩターン者の増・平均年間出生数の増）
2	歳入・消費額の増	毎年の支出（１億円超）を差し引いても、年間約３～４千万円の経済効果
3	Ｕターン率の向上	平成 16 ～ 20 年度 15.2％　⇒　平成 23 ～ 27 年度 24.9％

８．町と高校との魅力化推進事業の経緯と成果

丹後地域の高校再編の議論が浮上した際、町内においては、まず、卒業生を中心とする地域団体が結成され、町との意見交換や、高校存続の要望書を京都府教育委員会に提出するなどの活動を展開されました。

本町と高校においては、平成 28 年度以降、魅力的な学校づくりの議論を重ねつつ、生徒の成長と将来の地方創生・地域活性化につながる事業を少しずつ実践に移し、その効果の測定と関係性の強化に努めてきました。

これまでの事業全体の進捗については、一方からの依頼に対して、もう一方が支援や協力をするという「連携」のレベルから、魅力ある学校を共に考え、共に創るという「協働」のレベルまで到達したと総括しています。

また、地域探究学習を推進した結果、地域に対する愛着度の向上について、約７割の生徒が肯定的な回答をしたことに加え､総合型選抜対策講座を受講して進学する生徒においても、約４割の生徒が地元へのＵターンを希望し、約２割の生徒が、今はわからないが、地元へのＵターンも選択肢のひとつと回答しました。

地域に対する愛着度や将来の地域貢献に関する生徒の意識については、魅力化に取り組んだからこそ見えてきたものであるという点で、ひとつの成果であると言えます。

なお、高校生自身が、学校を飛び出し、地域のリアルを体感し、その魅力を発信する「よさの高校生広報室＠みらい」の発足、本町主催の「産業振興会議」や「地域デザイン会議」への参画など、徐々に、町内で高校生の存在感を示す場面が増え、高校生に対する周囲からの期待も高まってきています。

■ 年度ごとの取組と内容

年度	主な取組	内容
平成 28 年度	加悦谷高校活性化委員会の設置 魅力化先進校の視察	協働による魅力的な学校づくりを議論 行先：島根県・広島県
平成 29 年度	加悦谷高校魅力化ワーキングチームの設置 小高スポーツ交流の移動支援を開始	研修会の実施（６回） 全小学校との交流可能な体制の整備
平成 30 年度	高校魅力化コーディネーターの募集開始	年度中は採用に至らず
令和元年度	高校魅力化コーディネーターの常駐配置 地域探究学習を協働で実施	町と高校との関係性の強化・魅力化の推進 テーマ：丹後ちりめん
令和 2 年度	よさの高校生広報室＠みらいの発足 総合型選抜対策講座の開催	町の魅力を生徒自らが発信 学年の３分の１（30 人）が受講
令和 3 年度	Kayadani 仕事図鑑の開始 与謝野町産業振興会議・よさの地域デザイン会議への参画	10 回開催（14 分野） 主権者として町づくりの議論に参画

9．町と高校が目指す魅力化の方向性

（1）人材の還流・人材の自給自足

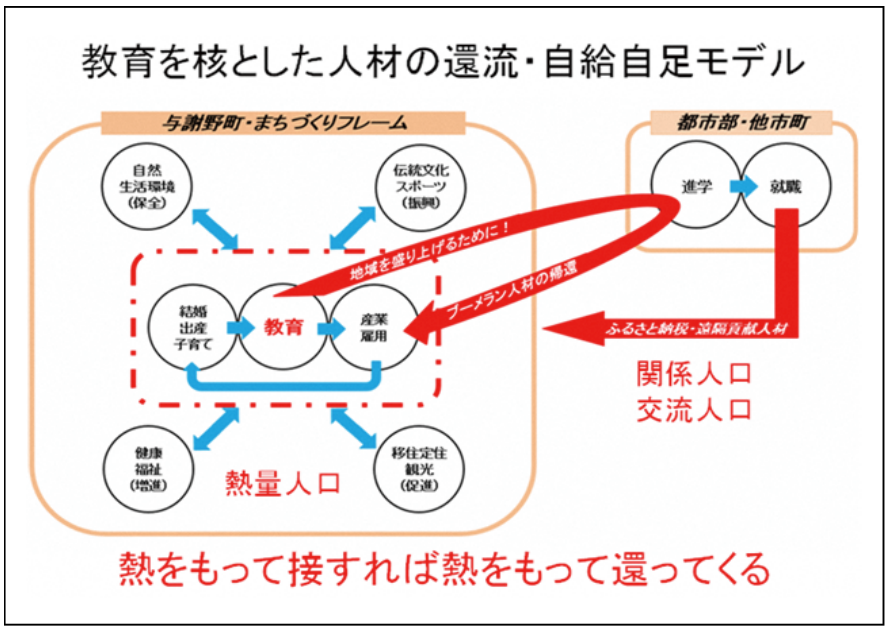
本町では、高校卒業時点で約７割の生徒が都会へと進学、就職し、そのうちわずかな人数しか地元に帰ってこないことが恒常的な課題となっています。

また、本町だけでなく、日本全体の人口が減少することは確実であることから、人口減少社会における地方創生のポイントは､｢町内の熱量ある人口の割合を増やすこと｣にあります。

近年、これらの地方創生の文脈の中で関係人口、交流人口の重要性が叫ばれていますが、まず、町内の熱量人口の割合を増やすことが、関係人口・交流人口を呼び込む上での前提条件となります。下図のとおり、人材が還流する町、人材の自給自足を目指すためには近道も秘策もなく、保幼小中高の学びを通じて、町の魅力や課題、想いを地道に伝えていくことが重要です。

なお、地元の熱量人口の割合の増加を軸としつつも、高校を卒業するまでの間に町の魅力をしっかり伝えることができれば、将来、世界のどこで暮らすことになったとしても、故郷に対する誇りという心の部分で地元とのつながりを持ち続けることができます。

そして、そうした人材は、いずれ、町外における強力な関係人口になってくれると同時に、町の魅力を正確に広めることによって、より多くの交流人口を本町へともたらしてくれるはずです。



（2）魅力化と財政とのバランス

全国で取り組まれている魅力化施策のように、毎年、数千万円から１億円超の支出は自治体にとってかなりの負担となります。この多額の支出を要する主な要因としては、各自治体ともに、人口減少、生徒数の減少がかなりひっ迫してから魅力化事業をスタートさせていることが挙げられます。

それに対して、与謝野町は、急速に加速する人口減少に直面していますが、まだ地元に一定数の児童生徒がいる段階から高校を支援することができています。したがって、地元生に投資を集中し、内発的な地方創生を推進することができると同時に、「最小の経費をもって最大の効果を生む魅力化」を目指すことができます。

本町の魅力化においては、「町づくりは人づくり」という行政の基本精神と、「入りを量って出を制する」という行財政改革とのバランスの両立が肝要です。

10. 魅力化ビジョン策定の必要性

これまでの魅力化施策は、こと生徒の一生に影響する教育に係る事業であるため、時間をかけて慎重に効果を見極めながら進めてきました。その結果、町と高校との協働の有効性を確認することができました。

また、魅力化施策によって見えてきた生徒の意識に関する数値を基礎データとして、より有効な手立てを検討していくことが求められます。

さらには、以前から加悦谷高校の地元就職率は高い数値で推移していますが、高卒就職と併せて、進学者のＵターン就職における雇用の確保も行政と地域の商工業団体で共に考え、解決すべき大きな課題となっています。

なお、魅力化は人づくりの要素と地域づくりの要素を含んでおり、両方ともに一朝一夕に進んでいくものではありません。時間をかけて、人が入れ替わっても事業を前へ進めていくためには、ひとつの確たる軸が必要となります。軸がしっかりしていれば、状況に応じて適切に変化していくこともできます。

そこで、本町と高校においては、両者にとって、より良い協働、より良い方向性、あるべき関係性を明らかにするためのビジョンを策定し、それに基づき、持続可能な推進体制を整えていくこととします。

11. 第２次総合計画・第２期ひと・しごと・まち創生総合戦略との関係性

高校魅力化推進事業は、総合計画や総合戦略に掲げる約束の未来像を手繰り寄せるための施策であり、魅力化ビジョンも、総合計画、総合戦略に接続するものとして位置づけられます。

本町の第２次総合計画のキャッチフレーズは「人・自然・伝統　与謝野で織りなす　新たな未来」であり、総合戦略の正式名称は、一般的な「まち･ひと･しごと」ではなく、「ひと･しごと・まち創生総合戦略」としており、どちらも、まず人を先に掲げ、町の最高の資源は人であることを明示しています。

高校魅力化も、人をつくり、この町に人を残していくための事業ですが、あくまでも学校教育に関わる事業であるため、まず、生徒の成長があって、将来の地方創生、地域活性化につながるという順番を大切にする必要があります。

■ 各種計画における事業属性

計画名称	事業属性
第２次総合計画	（分野５）魅力ある教育が活力ある人や地域を創るまち （施策３）生涯学習社会の実現と人権教育の推進 （事業９）高校・大学との連携・協働の推進
第２期 ひと・しごと・まち創生総合戦略	**（基本目標１）** 与謝野を愛し、多様性を認め合いながら、新しいモノやコトを創出する地域人財をつくる **（具体的施策）** （ア）地域で育む地域人財の育成 （イ）チャレンジできる担い手育成

第２章　高校魅力化ビジョンが目指すもの

１．基本理念

「学社協働」
～ 地域を創る人づくり　選ばれる学校から選ばれる町へ ～

高校魅力化の目的は、生徒と地域、双方の意欲を伸ばしていく相乗効果にありますので、この理念は高校生と地域の両方が対象となります。

また、「連携」とは、「既にできあがっているもの同士をつなぎ合わせること」を意味し、「協働」とは、「より幅広い組織同士が企画段階から一緒に練り上げ、交流することによって互いを高めていくこと」を意味します。

「集団知は個人知に勝る」という言葉がありますが、学校と地域が、連携を超える協働に取り組むことによって、それぞれが抱える課題を力強く超えていける人をつくり、結果として、選ばれる学校づくりから選ばれる町づくりに寄与することを基本理念とします。

「可能性を信じて　一歩前へ！
未来を切り拓くもうひとつの Passion　Dream　Challenge　Achievement」
（情熱）　（夢）　（挑戦）　（達成）

まず、すべては、自分の可能性を信じて、一歩前へ踏み出すことから始まります。そして、情熱を胸に抱き、夢に向かって歩みを進め、未知なることへ挑戦し、苦しみを乗り越え、達成することで、人は大きく成長していきます。

そうした経験を生徒と地域が過程を共有しながら積み重ねていくことができれば、どんな困難に直面しても前向きに取り組み、明るい未来を切り拓いていくことができます。

与謝野町と宮津天橋高校加悦谷学舎は、京都府内においても小さな存在です。

しかし、両者が協働することによって、個性と地域の両方が大きく輝き、確かな存在感を示すことができる人づくり、「一歩前」へ踏み出すことから始め、最終的に、「一歩先」を行く人づくりを進めていきます。

「よさの高校生広報室＠みらい」の保育体験

小高スポーツ交流

２．基本方針

（１）共学力　学ぶ力・学び続ける力の伸長

学ぶとは、自らの能力を高め、自らの可能性を広げていくために必要です。

そして、それは、学校を卒業して終わりではなく、社会人になっても、常に向上心をもって学び続ける姿勢が、困難に直面しても諦めることなく、前へ前へと進む原動力となります。

魅力化によって、学生と地域住民が共に学び、お互いの可能性を伸ばしていく環境をつくります。

（２）共育力　魅力（個性）の伸長

育つとは、言い換えれば、個性や地域の魅力の向上であると言えます。

魅力とは、そこにしかないもの、人を惹きつけてやまないものという意味がありますが、魅力ある人は、個人や地域が持っている多様な価値に気づく能力を持っています。

こうした魅力ある人財の育成が、この町、この学舎を盛り上げるために頑張りたいと思ってくれる熱量ある人財の増加、そして、人財の自給自足へとつながっていきます。

魅力化によって、この町、この学舎で共に育った人財が、将来、この町、この学舎を育てていける環境をつくります。

（３）共創力　多彩な魅力（個性）の協働

創るとは、新しいものを生み出すという意味で使われる言葉です。

また、社会に対して革新・刷新・変革をもたらすイノベーションとは、今あるものの組み合わせで起きると言われています。

すでに、町内では、建築×介護、土木工事×農業という新たな事業形態や、参加、体験など、コミュニティ機能を併せ持つオフィス構想など、多様かつ斬新なチャレンジが始まっており、本事業もまた町×府立高校という新たな組み合わせのひとつです。

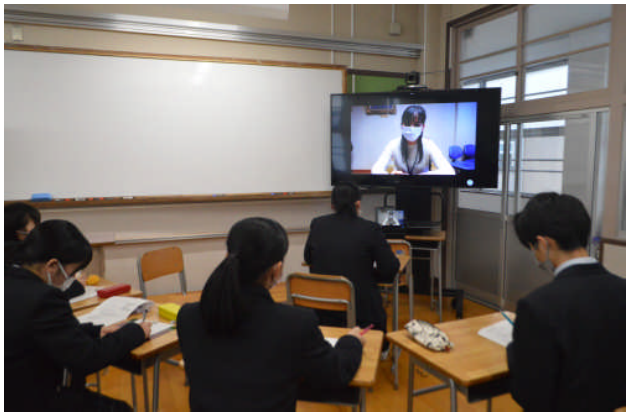
魅力化によって、多彩な魅力をもった人財が協働し、新たな価値を共に創っていける環境をつくります。

３．期間

令和４年度から令和６年度までの３年間とします。

なお、毎年、事業内容を精査し、改善につなげていきます。

与謝野町産業振興会議への参画



Kayadani 仕事図鑑に参加する生徒

第３章　高校魅力化ビジョンの具体的な事業や取組

１．魅力化ビジョン体系図

これまでから加悦谷高校・宮津天橋高校加悦谷学舎の教育目標、育てる生徒像は地域の学校として、地域貢献を意識した内容となっています。また、本町では、第２期ひと･しごと･まち創生総合戦略の中で、目指すべき地域人財の理想像を示しています。

今回の魅力化ビジョンでは、この２つを体系的につなぎ合わせ、将来を担う地域人財よさの人の基礎となる力を育むこととします。

年次	内容	育てたい心
１年次	地域探究 自分探究	愛郷心 好奇心 探究心
２年次	キャリア探究	自立心 挑戦心 協働心
３年次	進路実現支援 スポーツ交流 集大成事業	勝負強さ 粘り強さ 公共心

地域人材「よさの人」基礎力
＜定義＞ 「与謝野を愛し多様性を認め合いながら、新しいモノやコトを創出する地域人材」 ＜要素＞ ■ 与謝野町への愛情にあふれている ■ 地域課題を自分事として考え行動できる ■ 強みを知り、多様性を認め合うことができる ■ 智恵や技を継承し、未来に活かすことができる ■ 新しいモノ・コトづくりにチャレンジできる ■ 新しいモノ・コトの価値を理解できる

２．学社協働で取り組む具体的施策

以下に示している具体的施策は、「第１章　４．現状の環境分析」の課題を解決していくものである必要があります。とりわけ、高校生、地域に共通する課題として挙げている「自己肯定感の低さ」の解決は重要です。

現状として、高校生は、自分に対する自信、地域は未来に対する自信が低い状況にあると分析していますが、高校生も、地域も、かけがえのない価値と大きな可能性を持っています。例えば、丹後ちりめんは 300 年以上の歴史を有していますが、なぜ、今日まで続いてきたかを振り返れば、魅力と強みを活かし、変化と改良を重ねてきたからにほかなりません。

現在においても、その品質は世界最高峰。それを産み出しているのが伝統に裏打ちされた本物の技術です。そして、この本物の技術を持っている人たちとの出会いは、高校生にとって、多くのことを学べる生きた教材となります。つまり、丹後ちりめんを学ぶことは、高校生にとって、自分の強み、魅力、価値を「発見」するきっかけになります。

同時に、丹後ちりめんに携わり、本物の技術を持つ地域の大人にとって、高校生に織の技術を伝えることは、改めて、その魅力、強み、価値を「確認」する機会となります。令和元年度から３年間、実習の講師をお世話になっている織物関連の事業所の方は、当初、「高校生が丹後ちりめんを学ぶことに何の意味があるんだろう？」と疑問を呈しておられましたが、３年目を迎えた今回、高校生に対して、「もし、みんながやってみたいと思うなら･･･」という声かけをしてくれるようになりました。この意識の変容は、本町における魅力化の大きなヒントです。

地域には、もっと胸を張ってほしい大人がたくさんいます。一歩前へ踏み出してほしい高校生もたくさんいます。地域探究、キャリア探究等を通じて、地域資源と教育を組み合わせ、

地域と学校の距離を近づけることによって、お互いの自己肯定感や価値を高めていける学びを展開していきます。

（１）地域探究学習の推進（新たな価値・グローバルな視点につながる学びの創造）
① 総合的な探究の時間の充実 ② 各教科学習における地域教育資源の活用の推進 ③ 大学連携の推進 ④ よさの高校生広報室＠みらいの充実 ⑤ 校外活動の推進（部活動型・有志ボランティア型・生徒提案型・主権者参画型）
（２）キャリア探究の推進（自立心の醸成）
① 進路講話会の実施 ② Kayadani 仕事図鑑の実施 ③ 進路探究フィールドワークの実施
（３）進路実現支援（勝負強さ・粘り強さの醸成）
① 推薦入試希望者向け町政説明講座の実施 ② 進路希望の明確化・言語化の推進
（４）スポーツ交流の推進（利他心・公共心の醸成）
① スポーツ交流事業の拡充（中学校との交流）・ジラソーレへの接続 ② 多世代型スポーツ交流の実施
（５）町管理ウェブシステム「よさのみらいトーク」の活用（新たなつながりの構築）
① 地域探究・キャリア探究の充実 ② 卒業生との連携・交流の推進 ③ 就職情報提供体制の充実
（６）魅力化推進体制の充実（持続可能性の追求）
① 高校魅力化推進ワーキングチームの設置 ② 転任・新任者向け魅力化説明会の開催

３．現状と目標設定・調査手法

項目	現状・目標		調査手法
（１）地域探究学習の推進	現状	肯定的評価　約 70％	アンケート調査
	目標	地域への愛着度の向上	
（２）キャリア探究の推進	現状	地元就職率　60％超	実績
	目標	地元就職率の維持	
（３）進路実現支援	現状	将来の地域貢献人材の可視化	アンケート調査
	目標	Ｕターン志望者の増	
（４）スポーツ交流の推進	現状	小学生との交流	実績
	目標	交流範囲の拡充	
（５）町管理ウェブシステム「よさのみらいトーク」の活用	現状	ワークショップの実施（２回）	実績
	目標	システムの有効活用	
（６）魅力化推進体制の充実	現状	ビジョン策定ワーキングチーム	実績
	目標	持続可能性の追求	

第４章　高校魅力化ビジョンの推進体制と役割分担

１．各ステークホルダーの特徴

（１）高校（教員）

地域のことは詳しくないが、学びを設計できるのは教員のみ

勤務範囲が広域であるため、地域という概念を広く捉えることができる

（２）行政

地域のことは詳しいが、学びの入り口しかつくれない

地域という概念が基礎自治体に限定される分、地域の未来を諦めない情熱がある

（３）地域（住民）

熱意ある人たちは多いが、高校にどう協力していいかわからない

人は自分が経験した社会しか知らないが、本町は約２万人が経験した社会がある

２．推進体制

事業の円滑な推進を図るため、町と高校で、継続的に議論、チェックできるワーキングチームを組織します。ワーキングチームにおいては、まず、高校、町、地域の３者が、生徒の成長が将来的な地域の活性化につながるという意識を共有します。そして、適切な協働を進めることによって、生徒が、「自分は期待されている存在であり、地域や学校に包み込まれている」と感じられる教育環境を構築します。

３．役割分担

区分	推進組織	役割分担
高　　校	高校魅力化 ワーキングチーム	協働事業に対する提案・設計
与謝野町		協働事業に係る外部との調整・支援
地　　域		協働事業に係る協力

魅力ある学校と地域づくり

京都府立宮津天橋高等学校
校　長　　深　田　　聡

与謝野町の皆様には、日頃より本校の教育活動の充実、発展のため、物心両面にわたり温かい御指導と御支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、平成 30 年度に京都府立加悦谷高校の校長を拝命して以来、町民の皆様には多大なる御支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、令和４年度からは、加悦谷高校、宮津高校から宮津天橋高校（加悦谷学舎･宮津学舎）に継承され、丹後地域最大の在籍者数の京都府立高等学校となります。宮津天橋高校は、授業はもちろんのこと、探究活動、学校行事、部活動をさらに充実させ、これまでの教育手法を引き継ぐだけでなく、更なる成果と新しい価値を生み出す府立高等学校として丹後地域の教育を牽引してまいります。

特に加悦谷学舎におきましては、この「与謝野町高校魅力化ビジョン」に基づき、与謝野町とさらに連携、協働し、高校時代にふるさとを深く知り、理解することで、教育目標である「伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、地域社会を守り受け継ぐ人材の育成」を目指します。

高校魅力化とは、生徒一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要な「生き抜く力」をはぐくむことを目指した、地域社会との協働による高校づくりです。さらに、魅力とは、もちろん高校生にとっての魅力ですが、その生徒たちの保護者、教職員、そして生徒や学校を支える地域社会の方々にとっての魅力であるとも考えます。

加悦谷学舎は地域の方々の期待と支えを糧とし、各生徒が充実した高校生活を送るとともに、地域に貢献することで自己肯定感を高くし、与謝地域を思い、つながる気持ちを忘れない生徒を育成したいと思います。また、教育活動を通して、生徒たちがこの地域で「学びたい」「生きたい」「子どもを育てたい」と思う気持ちを醸成することで、与謝野町の魅力ある地域づくりの推進につなげたいとも考えます。

加悦谷学舎は少人数ですが、少人数ならではのメリットを生かし、生徒一人一人の魅力や個性を伸ばし、自己実現を支援する、主体性と多様性を尊重する学舎です。「与謝野町高校魅力化ビジョン」はその礎であり、与謝野町と加悦谷学舎が高校魅力化コーディネーターを架け橋としながら連携を強化し、意見を交流することで、宮津天橋高校（加悦谷学舎・宮津学舎）が与謝野町の町づくり、さらに丹後の地域づくりに欠かせない存在となれるよう教育活動に邁進します。

結びに、与謝野町の皆様のますますの御活躍と御多幸をお祈り申し上げますとともに、今後とも本校教育への御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げ、御挨拶といたします。

「高校魅力化ビジョン」策定にあたって

京都府立加悦谷高等学校
校　長　　藤　田　　浩

与謝野町の皆様におかれましては、日頃より本校の教育に御理解・御支援いただいておりますこと、また、与謝野町教育委員会をはじめ、与謝野町には本校の教育活動の魅力化・活性化に向けて多大なる御支援をいただいておりますことに、心よりお礼申し上げます。

本校は、昭和 23 年に「地域の子どもたちは地域で育てる」という情熱のもと、地域住民、教職員、自治体の協働により創立されました。地域の最高学府として、国内外に幾多の人材を輩出してきた、74 年の歴史と伝統を持つ学校です。

現在、「生徒一人一人の可能性を伸ばし、希望進路の実現を図るとともに、社会に貢献できる人材の育成」「伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、地域社会を守り受け継ぐ人材の育成」「豊かで幸せな人生を送ることができるよう主体的に学び続ける人材の育成」を教育目標とし、生徒一人一人の可能性を信じ、真剣で真の教育、信頼関係に基づく教育、そして生徒の力を伸ばす教育を進めています。

少子化の影響により、丹後地域の高校再編が進められることとなった平成 28 年度から、町と高校とで将来の地域創生・地域活性化と高校の魅力化・活性化の取組が始まりました。令和元年度に府内初となる「高校魅力化コーディネーター」を配置、総合型選抜対策講座、小・高スポーツ交流、地域探究学習、「Kayadani 仕事図鑑」、さらには、与謝野町の産業振興会議や地域デザイン会議への参画などの取組が進められてきました。その結果、本校生徒はそれぞれの可能性を伸ばし、自らの進路を実現しています。

今後、子どもの数が今以上に急速に減少していく中、町内にある唯一の高校として、地域の子どもを地域と協働して育て、その力を地域に貢献していくため、持続可能な体制を構築する必要があります。本校としても「高校魅力化ビジョン策定ワーキングチーム」のメンバーに教員を委嘱し、町とともに検討を進めてきました。そして、この度「高校魅力化ビジョン」を策定する運びとなりました。

府立加悦谷高校は、本年 3 月に最後の卒業生を送り出し、新たに府立宮津天橋高校加悦谷学舎として、その歴史と伝統、積み重ねてきた教育を継承することとなります。この「高校魅力化ビジョン」が町と高校の協働による新しい学校づくり、地域創生の礎となるものと確信しています。

結びに、これまで本校にお寄せいただいた御理解・御支援に感謝いたしますとともに、引き続き府立宮津天橋高校加悦谷学舎に対しましても、御理解・御支援を賜りますようお願い申し上げ、御挨拶といたします。

■ 参考資料

与謝野町高校魅力化ビジョン策定の経緯

Ⅰ 与謝野町高校魅力化ビジョン検討委員会

回数	日程	内容
第１回	令和４年 １月５日（水）	・中間案の協議・魅力化全般に係る意見交換
第２回	令和４年 ２月 18 日（金）	・最終案の協議・魅力化全般に係る意見交換

Ⅱ 与謝野町高校魅力化ビジョン策定ワーキングチーム会議

回数	日程	内容
第１回	令和３年 ７月 21 日（水）	・児童生徒数の推移見込、進学状況などの現状分析 ・町及び高校の魅力と課題 ・魅力化事業の必要性
第２回	令和３年 ８月 24 日（火）	・町と高校の協働の経緯 ・地域探究・キャリア探究・進路支援の実績と有効性 ・今後の協働事業に係るアイデアと課題
第３回	令和３年 ９月 21 日（火）	・加悦谷学舎の特色と学習活動 ・丹後の教育のメリット ・生徒に身につけさせたい力とその順番について
第４回	令和３年 10 月 28 日（木）	・魅力化ビジョン素案の確認・意見交換
第５回	令和３年 11 月 24 日（水）	・魅力化ビジョン中間案の確認・意見交換
第６回	令和４年 １月 18 日（火）	・検討委員会の内容報告・最終案に向けた意見交換
第７回	令和４年 ２月 10 日（木）	・魅力化ビジョン最終案の確認・意見交換

検討委員会・ワーキングチーム名簿

Ⅰ 与謝野町高校魅力化ビジョン検討委員会委員名簿（敬称略、順不同）

所属	役職	氏名	備考
宮津天橋高等学校	校長	深　田　　聡	
加悦谷高等学校	校長	藤　田　　浩	
宮津天橋高等学校 加悦谷高等学校	副校長	江　上　猛　志	
与謝野町	副町長	和　田　　茂	
与謝野町教育委員会	教育長	長　島　雅　彦	
与謝野町教育委員会 社会教育課	課長	植　田　弘　志	事務局長
与謝野町教育委員会 社会教育課	主幹	大　江　　聡	事務局
与謝野町教育委員会 社会教育課	係長	井　﨑　洋　之	事務局
与謝野町教育委員会 社会教育課	高校魅力化 コーディネーター	長谷川　夕　起	事務局

Ⅱ 与謝野町高校魅力化ビジョンワーキングチーム委員名簿（敬称略、順不同）

所属	役職	氏名	備考
宮津天橋高等学校 加悦谷高等学校	生徒指導部長	木　村　純　樹	
宮津天橋高等学校 加悦谷高等学校	進路指導部長	久　保　潤　治	
宮津天橋高等学校 加悦谷高等学校	第３学年部長	西　村　知　泰	
宮津天橋高等学校 加悦谷高等学校	家庭科教諭	守　本　友　子	
与謝野町商工振興課	主任	井　上　公　章	
与謝野町教育委員会 社会教育課	係長	井　﨑　洋　之	事務局
与謝野町教育委員会 社会教育課	高校魅力化 コーディネーター	長谷川　夕　起	事務局

与謝野町高校魅力化ビジョン

発行　与謝野町（教育委員会事務局社会教育課）
〒 629-2498　京都府与謝郡与謝野町字加悦 433 番地
TEL　0772 - 43 - 9026（直通）

京都府立加悦谷高等学校
京都府立宮津天橋高等学校加悦谷学舎
〒 629-2313　京都府与謝郡与謝野町字三河内 810 番地
TEL　0772 - 42 - 2171